

始動する日本の排出量取引

排出量取引のインプリケーション



平成20年1月17日
都市センターホテル

国連環境計画・金融イニシアチブ
特別顧問 末吉竹二郎

『CO2本位制』の始まり

< IPCC第四次評価報告書の意味するところ >

空気は、『有限な資源』



厳しい炭素制約が始まる



空気は、コスト。そして、プライスにも



『CO2本位制』の始まり

『CO2本位制』とは

< 許容されるCO2排出量の大きさが、経済や日常生活の大きさを決める >

□ 繁栄する、楽しむ、得をする

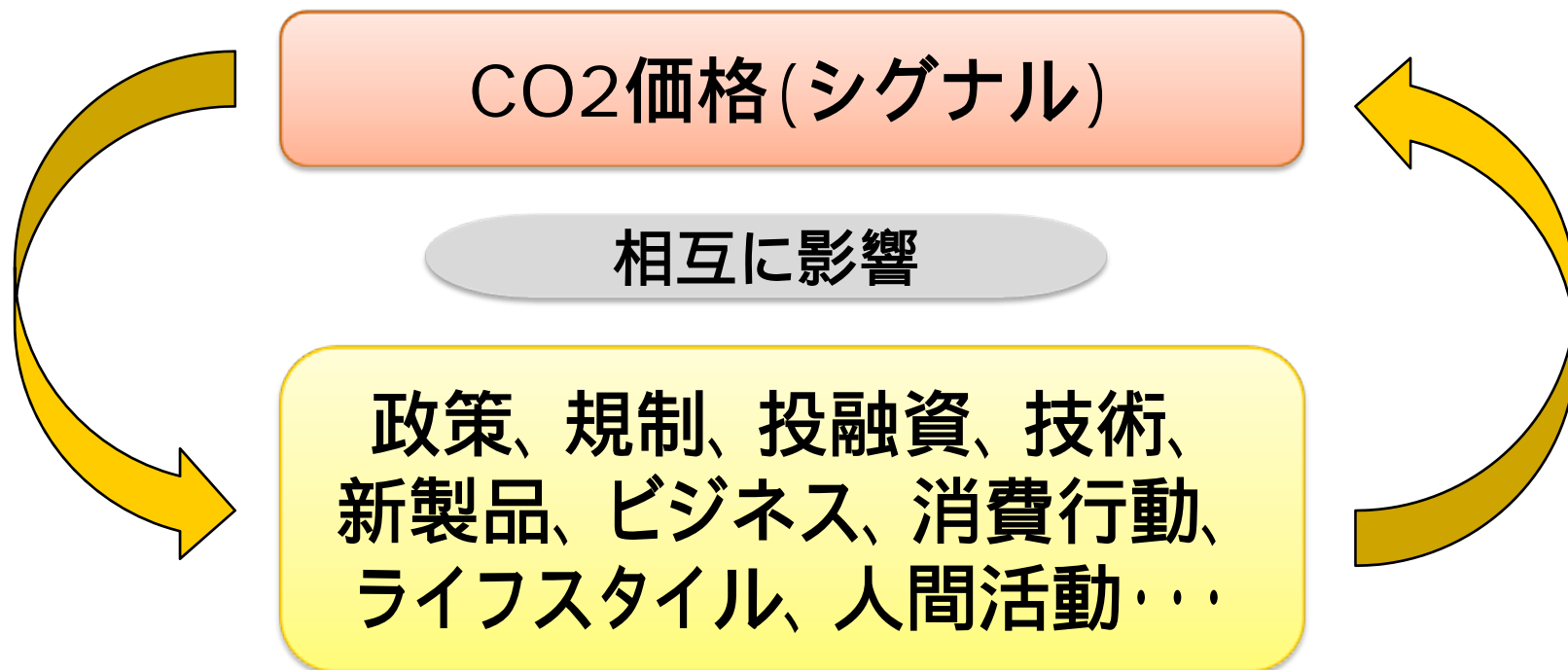
- 排出枠が大きい
- 削減能力が高い
- 効率が高い
- お金がある
- ソフト能力が高い

□ 衰退する、苦しむ、損をする

- 切り替えが出来ない
- モノ中心

『CO2本位制』の下では

< CO2価格がシグナルとなり、政治や経済や人間活動をリードし、その結果がCO2価格に跳ね返る >



新しい価値観の誕生

< CO₂を出すのは、悪い事 >

損をする、廃棄される、退場させられる、、、

< CO₂を減らすのは、良い事 >

得をする、受け入れられる、登場する、、、

「社会の座標軸の原点が、変わる」

国家経営へのインパクト

< 新しい国家間の覇権争いの始まり >

- 国家間の排出枠配分ルール之争い
- 国家間の排出権獲得競争
- 国内アクター間での最適配分
- 削減競争
- トータルベネフィットの極大化競争

企業経営へのインパクト

< Risk & Opportunity >

□ リスク・ファクター

新しい規制の登場

ビジネス・パートナーの選択

消費者=市民社会の変化

□ 新しいビジネスチャンス

“Your risk is my business”

新分野の広がり

雇用の拡大

「炭素管理が企業経営の核に」

金融へのインパクト

- “Not with my money“
- “People’s savings meet society’s goals”
- PRI
- Carbon Disclosure Project
- Investment Index

排出量取引制度の役割

< 低炭素社会への移行に欠かせぬ制度 >

- Fair Market Valueの実現
- Carbon Price Signalsの役割

政治、経済、社会を動かす「指標」、「ガイドライン」
技術革新、投資促進、雇用拡大 などの実現

- 21世紀型ライフスタイルへの道標 -

排出量取引制度が求める要素

< 金融市場の性格 >

- 世界的規模
- Openness
- 実現性
- 効率性
- 公平性
- 透明性

ICAPの政治宣言

- リスボン、Oct.2007

- 気候変動への対応は緊急を要する
- 行動しないことは危機的な結果をもたらす
- 低炭素経済への移行は、技術革新、経済成長、雇用拡大、エネルギー安全保障の強化に繋がる
- 市場に根ざしたキャップアンドトレード制は最も経済効率の高い方法である
- 世界各地の市場間の協力が求められる
- 世界規模の市場連携は多くのベネフィットをもたらす

日本にとっての排出量取引制度

- 弱い制度を持つデメリット
 - ・全てが他国任せ
- 強い精度を持つメリット
 - ・制度設計の主導権
 - ・自国通貨での取引
 - ・価格決定権の確保
 - ・流動性の確保
 - ・市場関連ビジネスの拡大
 - ・排出権プロジェクトの拡大
 - ・国内認識度のアップ

日本企業が考えること

- 世界の中の日本 -

- 温暖化の被害が増える
- 規制が増える
- 新しい価値観の導入が進む
- CO₂価格のプライシング・メカニズムへの組み込み
- 消費者行動が変わる
- ビジネス・ルールが変わる

19世紀米国先住民のことば

最後の木が死に、

最後の川が毒され、

最後の魚を採ったとき、

人は、お金は食べられないと気付くのだ

ご清聴有難うございました